

東京都立産業技術研究センター 第4期中期目標に対する意見について

項目名	御意見欄		都回答
<p>【第4期に向けた課題】 ① 事業化を見据えた支援</p>	青山分科会長	・ITCツールの活用をより一層推進するための、人材確保が望まれる。	<p>「政策体系における法人の位置づけ及び役割」の項に盛り込みました。</p> <p>「多様な連携によるオープンイノベーションの促進」 項の他、他組織との連携を盛り込みました。</p>
	波多野委員	・中小企業は今後益々SDGsやESGなどの非営利な活動が求められる。そのような観点も含めるべきである	
	林委員	・COVID-19の影響でテレワークが活発になっている。この状況を考え新しい事業化の取り組みが必要と感じる。	
	藤竿委員	・マーケティング力を有する組織・人材との連携強化。	
<p>【第4期に向けた課題】 ② テクノロジーの進展や多様化する社会ニーズへの対応</p>	青山分科会長	・新型コロナウイルス感染症の拡大が社会に与えた影響は非常に大きい。ポストコロナ社会の構造変化とこれにともなうニーズに対して、今後産技研がどのように対応できるかが、第4期中期目標の設定あたり重要であると考え。例えば、企業支援のオンライン化を行い、合わせて海外支援についても、オンサイトからオンラインへの軸足の転換を検討し中小企業の海外展開のより積極的な支援を行うなど、コロナ禍をきっかけとして、デジタル化、オンライン化の急速な社会の流れにこ乗り遅れないことが重要ではないか。	<p>「政策体系における法人の位置づけ及び役割」の項や「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の項の冒頭等に盛り込みました。</p> <p>「新産業創出支援」の項に盛り込みました。</p> <p>「政策体系における法人の位置づけ及び役割」の項や「組織体制及び運営」の項などに盛り込んでおります。</p>
	波多野委員	・社会的な課題、グローバルな課題を調査、分析し、実行していく企画、体制が必要であろう。ヘルスケアや医療のニーズの把握どのように行うのか、課題である。	
	林委員	・5Gを積極的に取り組み、中小企業で使える仕組みを考えていく先駆者になって欲しい。	
	藤竿委員	・IoT、DX等、デジタル技術の高度化に対応できる人材の獲得・育成。	
<p>【第4期に向けた課題】 ③ 新たなプレーヤーとの共創</p>	青山分科会長	・オープンイノベーションをオンラインを活用して実施するなど。産業技術研究所におけるデジタル技術推進のための人材確保などが望まれる。	<p>「政策体系における法人の位置づけ及び役割」の項に盛り込みました。</p> <p>「多様な連携によるオープンイノベーションの促進」 項の他、他組織との連携を盛り込みました。</p>
	波多野委員	・都の方針 未来の東京 戦略ビジョンに対応しているのか？、アフタコロナでは従来にない施策が必要。	
	林委員	・中小企業振興公社・都立大学と積極的に共創して、質の高い時代を先取りする研究開発に取り組んで欲しい。	

項目名	御意見欄		都回答
【第4期中期目標の視点】 視点1 東京の中小企業の技術力と稼ぐ力の底上げ	青山分科会長	・【②と同様】	「政策体系における法人の位置づけ及び役割」の項や「第二 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の項の冒頭等に盛り込みました。
	林委員	・ZOOM相談等を8割窓口2割くらいに積極的に取り組んで相談しやすい環境を作り、中小企業の稼ぐ力の底上げをして欲しい。	「技術相談」や「デジタルトランスフォーメーション・情報システム化の推進」の項に盛り込みました。
【第4期中期目標の視点】 視点2 先端技術や社会ニーズを捉えた東京の産業力強化	青山分科会長	・3D造形技術の進展は急速であり、社会の技術進歩に合わせた設備更新と研究レベルのアップが必要と考える。また、新しい技術としてのレーザー加工技術、特に、フェムト秒レーザー加工技術分野での技術支援に関する環境整備が強く望まれる。 ・メディカルヘルスケア分野における様々なニーズが今後も増えると推定されることから、当該分野での一層の技術支援が望まれる。	設備更新については、「剰余金の適切な活用」の項に盛り込んでおります。レーザー加工技術に関する環境整備につきましては、産技研が中小企業ニーズを踏まえて、検討していくものと判断しております。 ヘルスケア分野につきましては、「社会的課題解決支援」の項に盛り込みました。
	林委員	・COVID-19への対応等医療関係の支援、感染予防に資するアプリ等々人々が欲しいものを考え、東京を安心安全にする一助になって欲しい。	「政策体系における法人の位置づけ及び役割」の項に盛り込みました。
	藤竿委員	・都の産業集積に対する総合的な支援を展開できているか否かを評価する視点。	産業集積を、地域特性を踏まえた支援と捉え、「地域や支所の特色を活かした支援の充実」の項を設けております。
【第4期中期目標の視点】 視点3 産技研の資源やネットワークの効果的活用	青山分科会長	・【③と同様】+ 産業技術研究所における活動の、SDGsへの貢献についてこれを「見える化」するための工夫が望まれる。	「政策体系における法人の位置づけ及び役割」の項に盛り込みました。
	林委員	・SDGsの取り組みの強化で、環境を考えるように、資源やネットワークを利用して欲しい。	
	藤竿委員	・オンライン等の工夫により、従来と同等のサービスを提供できているかを評価する視点。また社会的にインパクトのある個別の製品化・事業化に対して、産技研がどの程度関わったのか(資源等をどの程度効果的に活用したか)を評価する視点。	オンラインの点については、「デジタルトランスフォーメーション・情報システム化の推進」等に盛り込みました。 インパクトのある製品化・事業化の点については、「中小企業等の新事業展開支援」等に盛り込みました。
その他	波多野委員	・第3期では、6つのCが浸透し、ガバナンスが強化され、分野やレイヤーの垣根を超えた組織の基盤ができたと評価している。研究力や発信力も向上している。第4期はコロナの影響で、世界も社会も大きく変化する。オンライン化が進むなかで、東京都という境界、さらには国境もなるであろう。それに対応できるように、ICT化、それを先導する人材を育成し、東京都の中小企業を支えるとともに、グローバルな展開も図っていただきたい。	「政策体系における法人の位置づけ及び役割」の項や「第二 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の項の冒頭等に盛り込みました。